

春季出荷ストックのトンネル被覆処理・遠赤色光照射による品質改善

春季出荷のストック栽培では栽培時期が低温になるため草丈が不足しやすく、品質低下が問題となっている。そこで、トンネル被覆処理と遠赤色光照射を行ったところ、相乗効果により単独処理よりも切り花長が長くなり、品質が改善した。

内 容

これまでトンネル被覆による高温処理で開花抑制と草丈伸長効果を、遠赤色光照射により草丈伸長効果があることを明らかにした。そこで、これらの同時処理による切花品質への影響を調査した。

2017年2月10日に「ピンクアイアン」をは種し、4月4日に株間、条間ともに12cmで定植した。遠赤色光照射は4月11日から毎日4時から6時30分と17時30分から20時まで、高さ160cmから行った。トンネルとの同時処理は遠赤色光源を覆うように



写真 トンネル被覆と遠赤色光照射の同時処理

ビニール被覆した（写真）。

その結果、無処理と比較して、遠赤色光照射で切り花長が長くなり、同時処理で最も長くなった。一方で、到花日数はいずれの処理でも無処理と差はなく、茎径と切り花重も同等だった（表）。これはトンネルの高さが160cmと高かったため、好適温度となり、その結果、草丈伸長効果が大きく、開花抑制効果が現れなかったことによると考えられた。

以上の結果からトンネル被覆処理と遠赤色光照射による同時処理は相乗効果がみられ、切り花品質の改善につながる事が分かった。

今後の方針

トンネル被覆処理による草丈伸長効果の温度による違いを明らかにする。

玉木 克知（淡路 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

表 トンネル被覆と遠赤色光照射による効果

	到花日数 ^Z (日)	切り花長 (cm)	茎径 (mm)	切り花重 (g)
遠赤色光照射	44.4	53.3 ab	6.16 a	49.4 a
同時処理	44.6	60.7 b	6.20 a	49.2 a
無処理	44.3	48.7 a	6.38 a	51.1 a

Z：定植から開花までに要した日数

Y：tukeyの多重検定の結果、異なる文字間に5%水準で有意差あり